○臺灣高砂族系統所屬の研究　本篇及資料篇

以上二部三冊、菊倍大のいかにも堂々たる新刊であつて、上山元臺灣總督が退職の際に得た惜別記念の資を臺北大學に寄せてこの種の調査を希はれた結果との事であるが、小川尙義教授や淺井氏・移川氏・馬淵氏等の學究的勞作として星霜をへて新に出たものである、我等はこゝに集められた傳說集を讀んで蕃人の珍らしい原始的文學に心を惹かれて卷を措くことが出來なかつた、地理學的に見て種々ちがつた方言の分布や民族移動の跡など敎えられるところの多いのに感謝せざるを得ない、定價五十圓といふのも決して高價ではない。

（藤田）

雜報

○四川省の米

全省人口の二分一は農民で米をつくるもの千萬を下らない、地域溫帶に位し地質氣候共に農業に適し長江は西南より東部に流れ、岷・沱・嘉・陵・烏江等の大河と其支流が域內に貫通するから、河のある所土質肥沃ならざるはなく、省內に山脈橫亙するも東南及西北の邊境を除いて、すべて農地であり、山奥でも溪流によつて農田を開き、中央の成都平原は最も肥沃である、全面積百二十九萬七千方里、人口四千七百九十九萬、水田は二五九、四〇五、〇〇〇アール、陸田三三二、〇九〇、〇〇〇アール、農民約五百萬戸と稱される。

そこで各縣米を產せざるはないが、川米は粘り氣がなく江浙米とは遙にわるい。

川東の產米は江津縣を主とするが油米といふ米で其色靑黑色にして皮厚く質極めて劣惡で冷えたる後は硬きこと蒸さゞる前と同じである、四望山からはやゝ良米が出るけれども其他は劣惡である、この縣は山地で豚・牛等の骨粉をやつてゐる、多き時は十五萬擔を輸出する。つぎに綦江境內の米は淡白で美味、山田肥沃で施肥の要がない、江岸の忠縣は米は良いが自給の程度である。重慶（巴縣）の山米といふのは輸出される。

川南の產地では滬縣のものは甘味である、合江・納溪・江安・長寧・南溪・內江・富順・犍爲等の各縣はいづれも著名の米產地である、自給の餘を鹽場に移出する、榮山縣の玄米は靑色であるが質は良い、其他の縣は土地廣けれども人少く、萬山重疊して移出せず。

川西では成都を第一とする、產米に凶年がなく米質もよい金堂縣の產米は全四川第一、各縣の米と共に成都に運消されてゐる。

川北では遂寧河の沿線にできるが質がわるい、土地がやせてゐるからであらう、渠河の各縣は土地廣く米の產も多い、白油米・黃油米・花紅米等の名があつて、赤色のものや黃色のものが多い、黃油米が最良である、其他は劣惡で俗に反眼米

或は鷄屎白ともいはれ、蒸したる後は恰も蠟の如くである。

之を要するに川西米即ち成都米が最も良好であり、川南は移出量最も多い、四川一省としては省内で自給であるが、川東は少數の地をのぞき多くは川南又は川北から輸入されてゐる。

川東の消費地は重慶、人口四十萬で一日千石の米を食ふ、涪陵縣は阿片をつくるので食用米を他に仰ぎ一日五六百石を消費するが、この米は最も悪いもので廿んずる。萬縣は人口十萬の河港であるから米の集散地である、川南の自流井の鹽場には、職工二、三十萬人がゐるから一日の消費米五百擔に達し主として資中・内江等から移入し、捷樂の鹽場も人口十萬でやはり米を近縣から移入してゐる。成都は人口四十萬、一日の消費千擔に達し多くは附近平原から入る、この平原は一年二季收穫の出來る土地である、川北には遂寧及太和鎮などの大鹽場があつて人口十五萬、一日に消費米二千餘擔に達する。

支那の農業は非常に自然に制約されて、米なども昔のまゝで、各縣品種がちがひ、黄米であらうと青米であらうと平氣でつくる、少々味がわるくとも又平氣でこれを食ふので、日本の米とは樣子がちがう、それでも涪陵で食う米は品質最も劣悪であり、重慶や萬縣などいふ汽船の船着場の消費米は極上品であるといはれる。支那米といつても、川米となると全く質がちがひ、品種も變つてゐることは注意すべき要點であらう。

○日英間の貿易品

英國の對日貿易は一九三一年を轉機として爾來年々入超の趨勢を持續し、一九二九年には輸入の輸出に對する割合は四對六であつたのに一九三三年には逆轉して六對四となつた、この頃では七對三に進まんとして本邦にとつて有利な狀況である、これは英國品の對日輸出減少の結果で本邦品の對英輸出增加のためではない、つまり消極的ではあるが、この結果は日本人にとつて悪からうとは考へられない。

本邦品の英國輸入と英國品の對本邦輸出

	輸入金額磅	增減%	輸出金額磅	%
一九二九年	九、一三一、六六三	100	三、四三四、六五六	100
一九三〇年	七、八一九、六四九	八六	八、三八、七八三	六一
一九三一年	六、九五二、五三三	七六	六、一八六、九〇五	四六
一九三二年	六、六九四、六二二	七三	五、七九、九五二	四二
一九三三年	七、一三一、九七四	七八	四、四三五、四五五	三三
一九三四年自一月至九月	六、一〇三、九一二	—	二、八六五、七七七	—

右表の如く英國品の對本邦輸出、換言すれば日本が買つたものは一九二九年に千三百萬磅もあつたが一九三三年には四百萬磅即ち三三%に減退した、同時に本邦品の輸入即ち日本から賣つたものも九百萬磅から七百萬磅に漸減してゐる、どちらも減つて來たが、輸出の減少が特に大きいために割合からみて日本の輸入が增したかと見られる。

處でかうした輸出入の減退は日本に限つたことでなく英國貿易全體が減退したゝめで英國の輸出入は一九二五年に二十億五萬磅に上つたが一九三三年には十億九萬磅即ち五三%に縮少したからで日本との貿易も自から半分になるべき筈であつた、しかしよくその貿易を吟味してみると英國からの日本への輸出は段々と減じても、日本からの輸入は縮少しないから實質的には相當の好勢をもつてゐる、これは其内容をみると明るになるのである。

今英國貿易年表國別統計をみると、本邦品の輸入は食料・飲料及烟草八種、原料及未製品十八種、製造品及準製造品二十八種に分類され、三大類五十四種の商品より年額十萬磅に達するものを拾つてみると一九三三年に十六種合計四百五十五萬磅となり前年よりも五十萬磅減少であつた、これは大豆及豆油が滿洲國の部に分離されたためで實は滿洲と日本と併せて八十一萬磅が輸入されてゐたから、前年と比べてむしろ增加したので、從つて輸入は十萬磅以下であつたもので陶磁器・綿製品・木製品・綿屑の四品目が其以前の三年間に十萬磅臺に上り、魚油や銅が十萬磅以下に辷つたに止まつてゐる、そこで、對英輸出の第一位をしめるものは生糸である、これは一九二九年の五十九萬磅から、一九三一年に九十一萬磅に急進した、一九三四年七月關稅開始で其稅率が半額になつた結果この數字は更らに大となる見込である、英國の絹工業が前進發展し粗下製造方面の需要が多いためと見られる。

第二位の絹物は一九二九年に一千萬平方碼であつたが、一九三四年には九月まで一千三百萬平方碼となつた、しかしこの方の發展は英國内の絹工業家の反對を買ふに至る恐がある、第三位の蟹罐詰、第五位の鮭罐詰は共に本邦水産輸出の王者である、最近鮭の方はとれにくゝなつたのに反し蟹の進出は目ざましい、即蟹四十二萬磅、鮭三十五萬磅に上つた、猶其他の魚の罐詰も最近躍進した。ソヴイエトロシヤからの鮭の罐詰十五萬磅に達するものゝうち純露國産は五分の二に達しない、五分の三はすべて日本人のカムチヤッカで漁撈するレッド鮭であるとの事である、第四位は護謨製品で一九三一年以來急に增加したもので、一九三三年三十九萬五千磅に上つたが一九三四年には急に三萬磅に減じたゴム靴・オーバーシュウスの類は一九三二年三割の重稅をかけられた結果である、これは全く日本人があまり性急に安値で競爭した結果であつた、第六位の豌豆は唯一の十萬磅臺のものであるがこの輸入はオランダ品よりも數量に於て凌駕してゐるものであつて將來も見込は多い、第七位に木材の楢がある、第八位に玩具類がある、これは獨逸品が第一位で、日本これにつぐものであつて二十萬磅に達した、第九位に電氣用品がある、電球が十九萬磅に上つたが、これもあまり急に增加したので對策を考へられたから一九三四年以後本邦から統制を加へることになつた、次に第十位シャツがある、これも重稅賦課の議があるから日本で統制を加へるやうになるかもしれない、第十一位は

陶磁器である十萬磅内外に堅實な地歩をしめ、第十二位は綿製品、第十三位に釦類、第十四位に木製品、第十五位下著衣第十六位綿屑がある。

轉じて英國の對日輸出をみると漸次衰退に向ひ一九三三年二十萬磅をこえた商品は鐵鋼及同製品・機械・毛織物の三種になつてしまつた、かうなると片貿易となるから餘程日本側で注意しなくてはなるまい、勿論圓價低落の爲替關係から輸出の退いた點もあるが、幾分英國工業の萎縮の結果とも見られる。

○馬鈴薯

馬鈴薯が南米の原産物であることは誰しも知つてゐることであるが、チリーにゆくと海岸地帶からアンデスの中腹に至るまで野生の馬鈴薯のあらゆる種類が生えてゐる、歐洲人の發見以前先住民たるアメリカインデアンによつて既に古く栽培されてゐたもので、マークハム蒐集にかゝるロンドン王室協會の標本には、この薯があつて、説明にペルーで最も古く栽培されてゐるとある、ペルーではスペイン人の侵入以前に白・黄・赤・圓形・長形の各種、大小種々の薯が栽培されてゐると記されてゐる。

處がイギリスでは一五八五年ウォーター・ラレー又は僚友トーマス・エリオットの手で、北米ヴァージニアから愛蘭へ持ち歸つたといふが、しかし其後百年間ヴァージニアの植民地の農民は馬鈴薯を栽培はしなかつた。ラーレーの船も、決して馬鈴薯の原産地たるチリーやペルーの方面には航海しなかつた。又ジョンホーキンスがポテトーを一五六五年に移入したといふ説もあるが、それは甘藷であつて、馬鈴薯ではなかつた、この頃の人でドレーキは慥かにマゼラン海峽を越え(一五七八)ペルーに達し太平洋や印度洋をへて歸つたが、この際は馬鈴薯を將來しなかつた、けれどもやがて一五八六年の航海に英國へこの薯を將來したらしい、西國事物起源には一五六七年ドレーキが之を英蘭に移したとあるけれども勿論確證はない。それよりもスペイン人が一五三五年ペルー征服以後にいつかこれを歐洲に傳へたとみるべきであらう。愉快なことはこの馬鈴薯が、歐洲で栽培されたのちに、海を越えて北米や濠洲に移入されたことで、北米へ南米から直接に輸入されなかつたことである。

一七六九年に農學士アンソニー・アウグスチンが馬鈴薯はその營養價も高く、その栽培も容易だからパンの代用として普及さすべきであるといふ論文をパリー學士院に提出した、それ以來フランスを始め歐洲一帶に急速に弘まつた、アウグスチンこそこの薯と共に忘るべからざる人であらう。

我國へは傳來が何年であるか明瞭でないけれどもジャガタラ(爪哇)といふ名があるから、オランダ人の同島占領が慶長三年(一五九三)で、同十四年始めて我國に通商したとなれば慶長年間の移入であつたとみてよい、西國事物起源には歐洲では最初は畜類のみに與へたが一千七百年の始め民の貧しきものが初めて之を食つたとある。やがて一八四五年になつて

この馬鈴薯の飢饉があり、愛蘭の多くの人が餓死したので、俄然として新しい品種の搜索が始まり、栽培の研究が進歩しウイリヤム・パターソンによつて新種ヴィクトリヤが栽培されることゝなり、やがて一八五〇年にはグートリッチがガーネット・チリーといふ品種をアメリカに流行さした。爾來種々改良された多くの品種が行はれることになつたが、今日では麵麭や酒の原料ともなり、澱粉にもつくられる。德川時代には清太夫薯(武藏)・甲州薯・朝鮮薯(近江)・伊豆薯・あかいも・善光寺いも・五升いも・江戸いもなどの異名で呼ばれた。日本でも同樣に凶農の用心に甲州や信州に夥しく作くつたから自からかうした異名が出來たのである。但し信州や甲州でつくられた馬鈴薯は草木六部耕種法によるとこの芋は土地の瘠せたる畑にても能く豐熟す、その畑をよくほやかすときは一歩の地に大小兒根を生ずること八升より一斗以上に至ると論じ、凶荒に缺くべからずとある、白色と微赤色の二種あり、白色は味勝れりとあつて、今日の如く品種の數も多くはなかつたらしい。

○日本の苹果 リンゴの栽培は古いバビロニアに始まり瑞西では加工された苹果の炭化したものが湖水沿岸から出るのをみるから餘程古い果物であるが、日本に來たのは新しい、明治四年細川潤次郎氏が北米に行き歸途その苗木を送くつたのが最初で、明治五年十月新宿に試驗場が出來、明治六年からその培養したものを賣つた、勿論リンゴのみではなく明治七年には西洋果樹目錄といふものが各府縣に配布された位である。

東北及北海道の苹果は明治八年以後であつて、青森縣第一位をしめ、北陸道には明治十三年頃栽植したが、今日は其後なく、長野縣は十四年頃からはじめ大正から昭和にかけて著しく發達した、いづれも寒地の苹果であるが、暖地では明治七、八年に苗木を分けたが物にならず、しかし今日では香川縣の小豆島や、愛媛縣の興居島に盛んにつくられてゐる、岡山縣や佐賀縣は更におくれて明治二十四、五年から始めた、何といつても青森の六百萬箱が第一である。

朝鮮では明治十七年仁川領事館内に試植したが現今では大邱・鎭南浦・黃州・咸北の四地方から產出される、大邱は最も古く明治二十五年米國宣教師フレッチャー氏によつて輸入されたが、日露戰爭後日本人の渡鮮して果樹園をつくるものが增加し、明治の末期は慶南釜山から蔚山方面に多く大正以後中鮮西鮮・北鮮へと擴がつて右の四大產地が出來た、就中大邱苹果は他の三大產地又は青森よりも廿日乃至一ケ月早く熟して市場に出るのと、風味著しく卓越する利を占めてゐる。大邱地方は日照時間も多く地味果樹に適し、一本の木で二十二年生で一千五百顆乃至二千顆の優良顆を產するものさへ出來てゐるといふことである。

但し苹果も最近は種々の新種が競ふて市場に出ることは梨と同樣である。

○日本の梨

日本には古來から野生の梨があつたが其果實は石の樣に堅いまゝ、これを改良するといふことはなかつたが、現在の和梨の原種とも見るべきPyrus Serotinaは揚子江沿岸に野生する梨であつた。恐らくこの梨が或程度に栽培改良されて日本に入り、それがまた改良されたものであるであらう。最近になつて日本の農藝が進歩して種々の新種が出來るが、明治以前は多くは青肌で、青梨といふものであつた處が明治二十八年頃神奈川縣橘郡大師河に當麻長十郎といふ人が偶然に褐色肌の梨を發見したのでこれに長十郎といふ名がついて、爾來全國に普及し、明治三十七、八年から大正五六年の間に本邦梨の栽培の六割以上にもなり長十郎全盛時代をつくつた。しかし日本人は氣が短かくて流行に走るので、長十郎時代にはいかに甘味でも青梨などは顧みるものがなく、明治四十一年日本種苗會社の品評會に千葉縣の松尾覺之助氏が二十世紀といふ青梨を出品して一等賞を得たが、之に非難があつた位で、同時に大白といふ梨が横濱に出來、二十世紀に似てゐたが、それもあまりうれなかつた、然るに大正の末になると長十郎が生産過剰となり風味に飽かれたので、いつの程にか右の二十世紀が世に出で、青梨に對する誤解が消えて今日では二十世紀全盛時代となつた、しかし長十郎にも捨て難い味があるのだから、生産者は流行を追はぬやうに願ひたい。

明治三十八年頃から日本にも西洋梨(スキヤス原産)が入つて瓢簞形の珍なものが、東京に現はれはじめた、明治六年洋梨百種を輸入したが、今日はバートレット、ギユイヨー(プレコース)、ラフランスの三種のみが栽培されてゐる、これらのものは元來地中海式の氣候夏乾冬濕の土地のものであるから、夏濕冬乾の日本では不適當である、到底北米カリフオルニヤなどには及ばないのである、更らに最近には山西の原産で山東をへて鴨梨(ヤーリ)・猪嘴梨(チヨツルリ)などが入つてきた、これらは洋梨とは全くちがつたもので前者は青梨で香氣の高いのを貴び、後者は味が甘いのが特色である。

いろ〳〵多種類の農藝品が出てくるので、日本は果實にめぐまれてきた、葡萄の如きも昔は黑葡萄の如き劣ものが尊ばれたが近頃は溫室葡萄でマスカツト、アレキサンドリヤなどいふものが飛ぶやうに賣れだしてきた。

○英國の鰊産業

大戰前即ち一九一一年乃至一九一三年間の年平均鰊販賣高三百七十萬磅の多きに上つたが其後段々と衰退に赴き一九三一年一九三三年の平均は二百十萬磅に減少し漁獲高は戰前の半分になつた。これは全く米國鰊がそれだけ販路を失つた結果で、國内消費も對外輸出も共に減じたのである、元來英國漁獲鰊の七〇%以上は輸出であつたが今日は五五%になつたのである。

鰊は腐敗しやすいから輸出の大部は鹽藏か燻製でなくてはならないが、主要輸出市場は中歐・東歐諸國及び米國であるが歐洲方面で戰前の三〇%に過ぎない程に激減した。これは

アイスランドやノルウエーの漁獲物の競爭もあり、鰊にかはる全然別種の安値食料品の出現もある結果である。

國内消費に於ても半減した、それはこの魚の料理が臭いこと、品質不良なること、骨が多いから小兒の食品として不適當であることや、價が高きに失することなどが述べられてゐる、處が漁獲する船を見ると其數は割合に減少してゐない、蒸氣機關を有する漁船が多く、しかもこの船は一九三三年に於て一九二九年に比し僅に七十四隻を減じたに過ぎない、つまり船一隻の漁獲高は大に減じたのであるから漁船所有者はすべて借金を負ふやうになつた。

蘇格蘭の漁夫は一九二九年に一人當收入約五十一磅であつたのが一九三三年には約十二磅しか收入がなかつたといはれスコットランドの代表的漁船百三十隻すべてが五八〇磅の負債をもち、ある港では漁船の平均負債が一、八〇〇磅にも達したといふことである。

海國イギリスの水産業の重要品たる鰊もいつのまにかかうした苦境に立ち目下鰊産業法案で之を保護改善せんとするやうになつた、國民の生活費が高まつてくると、水産者さへやはり生活が向上して十二磅位の收入では立ち行かぬやうになるのである。之を日本の水産業者の活動に比べて大英帝國も亦老いたと考へしめるのではないか。

○印度の紡績 一九三四年八月末の印度の紡績工場は三五二、資本二億九千二百二十萬留比である、其所在地はボンベイ及ボンベイ島及アーメダ・ハッドの兩中心であつて其他ベンゴール州、中央州にも散在する、全國の錘數九百六十一萬三千錘で過去一年間に四萬千錘を增加した、織機數は十九萬四千九百八十八臺、棉花の過去一年間の消費は二百七十萬四千俵に上り昨年よりも五分減少した、其減少した理由はボンベイに於ける罷業と工場閉鎖の結果である、其使用人員は三十八萬五千人で前年の四十萬人よりも減少した。

○ブラジル在留邦人 昭和八年十月一日現在で男九萬一千三百七十三人、女六萬六千百〇三人合計十五萬七千四百七十六人に達しサンパウロ州に在住するもの十四萬六千人、ミナス・パラナ、リオ・グランデ・ド・スール、ゴヤス等の諸州に約五千人、マット・グロッソに二千七百人、パラー、アマゾナス州に約二千人がゐる、昭和九年までの渡航者から出生死亡數を差引すると現在のブラジル在留邦人は凡十八萬を超えてゐる筈である。

農業者は壓倒的の多數で十六萬五千人、商業者は四千五百工業者は三千五百人の推定である。

最近の調査によるとブラジル全國で日本人の個人所有土地總面積は約三十八萬六千町歩である、サンパウロ州で二十四萬町其價格十三萬コントス(邦貨約三千二百萬圓)でノロエステに十二萬町歩第一位をしめ、ソロカバナ州で五萬七千町、ジュキア、イグアッペ地方で三萬町、バウリスタ鐵道の延長線内に二萬町をもつてゐる、その外の州ではパラー州の十三萬

町、パラナ州で一萬町、ゴヤス州で三千町、マットグロッソ州で二千五百町であるが、個人でなくて諸團體のものは更らに大規模で例令ば南米拓植會社は百三十三萬町歩を有し（パラー州）、アマゾニア産業研究所は百萬町を有してゐるが、この兩者は熱帶森林地であつて開發の最初である、サンパウロ州で海外興業株式會社は七萬八千町、海外移住組合は十七萬八千町を有し、パラナー州では日伯企業組合や、野村事業部などが五萬町歩を有する等、團體所有地を合計すると三百十五萬五千町歩である、この數字は實に日本の米作地耕地面積に比敵する、しかし勿論日本の田や畑とはわけがちがうのであるが、ミナス州で五千町歩からの日本人借地面積は主として邦人米作者の進出である、サンパウロ州では借地面積三萬七千町歩であるが、珈琲栽培を主とし、邦人所有の珈琲樹は六千三百八十萬本に達してゐる、これらの木から年三十萬俵、價格二萬三千コントス邦貨約五百七十五萬圓の精撰珈琲を産してゐる。

最近邦人の棉花栽培に進出するものが多く一九三三年度二千七百萬瓩、價格六百九十四萬圓に達し一九三四年はその倍額を生産した、珈琲・棉花についで邦人は馬鈴薯・烟草・米・蔬菜等を作くり、サンパウロで馬鈴薯の二一%、烟草の二五%蔬菜の六六%を邦人農圃から收穫した、この外バナヽ・玉蜀黍・豆・砂糖等多角經營をやつてゐるが、サンパウロ州イグアペでは二、三の邦人が紅茶をやつてゐて同州全産額の八〇%は全く邦人茶業者の獨壇である、蠶蠶も亦邦人の試みで一九三三年に二十九萬八千瓩の生繭を産出した、其他サンパウロ近接の諸州在留邦人の手でカカオ・椰子・ブラジルナット・パインアップル・パパイア・柑橘類・甜菊等をやつて年額十萬コント約二千五百萬圓を收入するといふのだから誠に心强いと云つてよい、しかし牧畜の方はからきし駄目であるらしい、十八萬の邦人が馬一萬一千頭、牛七千頭しか所持してゐない現狀である、商業では邦人の業者一千三百二十四人、家族四千五百、の人々が日用雜貨商・青物商などから出發したが一九三三年本邦の商品は輸出三百七萬圓、本邦への輸入百六萬圓にも達し、其後大に發展したので近くは經濟使節平生氏一行が米國經由、伯國訪問の途に上りつゝあるのである。

○瑞西と日本との貿易

一九三四年中日本よりの輸入約六百萬圓、日本への輸出九百萬圓、即ち瑞西よりみれば三百二十六萬法（一法は我一圓十五錢位）の輸出超過であるが、之を一九三二年の輸入六、五四九、〇三三法、輸出一五、六四三、六〇四法に比べると非常な減退である、しかし一九三三年度に比べると出入共に大差はない、さうして日本品の輸入は、同國の總輸入の・四%輸出は總輸出の一%七位にしかならないけれども日本への輸出は減退で輸入は漸增の傾をしめし、日本よりみれば貿易尻は改善されつゝあるのである、

日本からの輸入品は鑵詰食料品・マルト・絨・綿糸綿布・絹屑ペニー・生糸・眞綿・絹布・人絹布・眞田・柳行李・ゴム製品・シヤ

ツ・陶器・金屬品・機械・時計のケース・沃度・脂油・小間物・電球玩具・烟草其他であつて、日本への輸出は粉ミルク・チーズ・綿布・絹織物・寶石類・鐵製品・鑪類・アルミニユームと其製品・自動車及部分品・時計及部分品・學術計量器・醫藥化學品・化學原料・アニリン染料其他である。

右の內日本よりの輸入品中首位を占むるものは生糸で、近年伊國品に代はつて輸入しはじめたのであるが其他は一般的に輸入制限で思ふやうに伸びてゆかない、けれども輸入品の範圍は廣くなつた、轉じて本邦への輸出は各種機械（一般機械・發動機・刷梳機・蒸氣機關・食料品製造機）等最も多く、一九三三年度に比して百萬法を增加した、次で時計・化學製品・アニリン染料等は一九三三年度に比して大差なく、其他の雜品特にアルミニユーム・綿布・絹布等の減退著しい、要するに輸出については輸入の場合と反對に輸出品目の種類が次第に少くなり特殊品のみに集中する傾向がみえる。

○スマトラと日本との貿易

一九三四年スマトラ東海岸州では、本邦よりの直接貿易輸入五六五萬五千盾で前者に比して百二十五萬盾二割八分を增し、西海岸州では輸入二百九十萬盾でこれ又前年よりも增した、經濟界の不況と輸入制限の重壓をうけても益々躍進するのは目醒しい、而かも本邦への輸出は僅に一萬九千九百盾で片貿易といつてよい。

最近六ヶ年間本邦より東海岸州への輸入の增進は左の如し。

年次	本邦より輸入	輸入總額
一九二九	二、三四三、〇〇〇盾	八九、六五〇、〇〇〇
一九三〇	三、五五二、〇〇〇	一〇五、〇三九、〇〇〇
一九三一	三、七五九、〇〇〇	六二、八七二、〇〇〇
一九三二	二、三四六、〇〇〇	五〇、四八九、〇〇〇
一九三三	四、三五九、〇〇〇	三六、〇三九、〇〇〇
一九三四	五、六〇五、〇〇〇	三六、九四二、〇〇〇

今その品目について之を見ると第一は綿糸布及製品で本年度で二千二百四十萬ヤード、前年より一千萬ヤードの增加であり、綿糸は一九三三年に激增し本年は英國をぬいて第一位となつた、サロンは制限されて激減した、絹・人絹其他の織物は不明であるがブラワン港輸入の九割まで本邦品である。

つぎに近年本邦の自轉車部分品（タイヤ・チューブを除く）の當州への輸入增進振は驚異的である、一九二九年には五萬八千瓩のものが一九三四年には二百十萬瓩で第一位である、完成自轉車・チューブ・タイヤーも二倍から四倍の輸入である亞鉛引鐵板も英國品を凌駕し亞鉛華は五十二萬四千瓩で本邦の獨占である、鰮鏈詰とゴム採取茶椀いづれも躍進した、其他メリヤス・ゴム靴・エナメル製品・硝子製品・陶磁器等好調であつて、一九三〇年第八位であつた日本は印度を凌ぎ一九三四年第二位となつた、かくて和蘭よりの輸入の約二倍半、英國品に對し三倍になつた、西海岸州でも日本は二、九〇三、〇〇〇盾で第一位の輸入國で、輸入總額の四二・三%をしめて

ゐる。

○滿鮮國境を貫く大道路

新義州から惠山鎭に至る鴨綠江岸の國境道路は、大正十五年から十三箇年繼續工費四百八十餘萬圓で着工された幅五メートル五十の二等道路で、九年度には原昌まで進み、十年度には五十萬圓を投じて馬力をかけ、十三年には開通する豫定である、更に昭和七年度から十五年繼續八百三十八萬圓で起工した豆滿江岸の北鮮開拓殖産道路は、工事着々進行し、やがて惠山鎭から茂山、雄基を經て羅津にいたる國境道路の完成を見、鴨豆兩江岸を縫ふ國境沿岸道路が現出して、自動車のエンジンの音も朗らかに國境見物が可能となるのみならず、匪賊の移動警戒や討伐も非常にスピード化される譯である。（朝鮮）

○豆滿江上流からダイヤモンド發見

金は固より、銀・鐵よりリシウム・雲母・マグネサイト・タングステン、寶石ではトパーツ・サファイア・月長石等があり、朝鮮こそ世界の鑛物標本地だといはれてゐたところ、アフリカが獨占舞臺であつた寶石のクイーン「ダイヤモンド」が、最近我が朝鮮半島から發見され、一大センセーションを捲き起してゐる。

釜山松本農園主松本宏一郎氏が間島旅行から歸途、豆滿江上流で砂金調査のため、江岸の砂中を精密に調査してゐると、約三ミリ位の眞白な石七粒と、小豆粒大の眞赤な石十三粒を發見したが、京城高等工業學校鑛山科鑛物地質擔任教授朴東吉氏鑑定の結果、白い方は「ダイヤモンド」で、眞赤な方はスペッサタイド柘榴石と判明した。朴教授は左の如く語る。

何しろダイヤモンドの原礦を見た事がないものだから、最初松本さんから石をお預りした時は、何んだらうと好奇心を持つて調べ始めましたが、學校には機械と藥品が具備してゐないので、朝鮮總督府地質調査所木崎技師の援助の下に更に研究した結果、はつきりと四十八面體の結晶形を始めダイヤモンドの特徴を確認し、ダイヤモンドと斷定したわけである

尙英國の古文書には此のスペッサタイド柘榴石と共にダイヤモンドがあると書いてある。何れにしても朝鮮からダイヤモンドが發見された事は、東洋鑛業史上の異彩であり、私はこれを各大學に通知する心算です。（朝鮮）